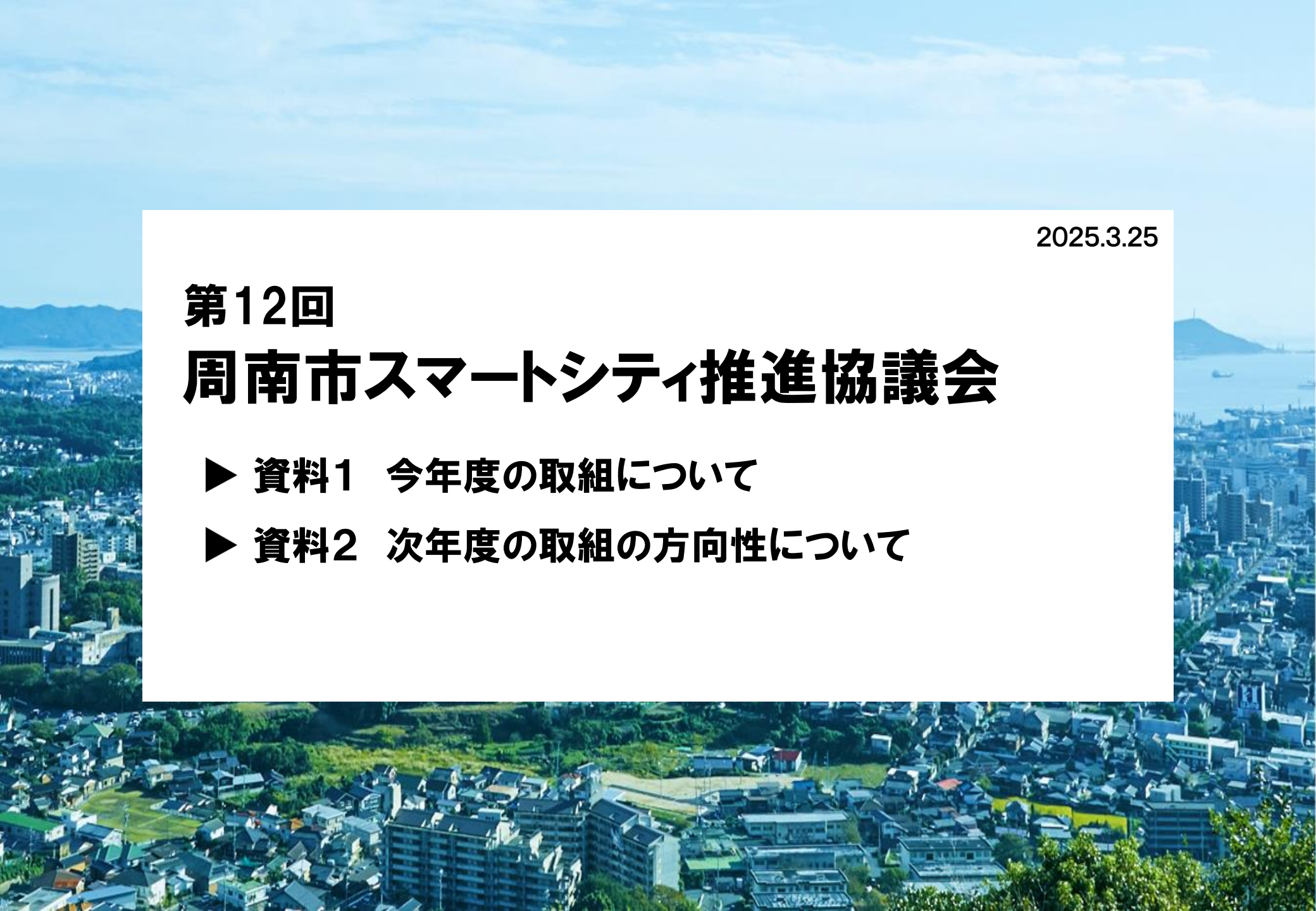




2025.3.25

第12回 周南市スマートシティ推進協議会

- ▶ 資料1 今年度の取組について
- ▶ 資料2 次年度の取組の方向性について

資料1

今年度の取組について

令和6年度デジタル関連の市の取組（1／4）

運用中：市民や職員がサービスを利用できる状態

着手済：必要な手続等に着手している状態

検討中：事業について検討を行っている状態

分野	取組	概要	状況
安心 安全	災害対応用ドローンの導入、操縦士育成	非常時に、被災状況の確認、早期復旧を図るため、災害対策本部の指揮下にドローンの飛行チームを編成する。平常時には、業務の質の向上及び効率化を図るため、ドローンの積極的な活用を行う。	運用中 (R6.4～)
	消防用ドローンの導入	災害活動における情報収集や活動隊員の安全管理など消防救助活動の高度化を図るため、消防用ドローンを導入する。	運用中 (R6.9～)
	消防指令システムの更新	災害時の状況把握や消防活動の効率化を図るため、消防指令システムの更新を行う。	着手済
	河川等水位の監視	災害時における職員の負担軽減・合理化及び水害リスクの可視化のため、市が管理する河川や水路に簡易水位計を設置し、その水位情報を市民に提供するシステムを構築する。	運用中 (R7.3～)

令和6年度デジタル関連の市の取組（2／4）

分野	取組	概要	状況
医療・福祉	郵便局と連携した巡回診療の実施	地区内に医療施設のない和田地区の郵便局で医師が巡回診療を行うことで、住み慣れた地域で継続的に診療を受けることができる環境を整備する。	運用中 (R6.7～)
学び・子育て	保育所等業務ICT化のためのシステム拡充	公立の保育所・認定こども園の保育環境の充実に向け、業務ICT化のために機能の拡充を行う。	運用中 (R3.1～)
	小学校でのGISを活用した安全マップづくり	モデル地区の2校で従来、模造紙を使用し行っていた危険箇所等を可視化する授業で、タブレット端末を使用しGISでの安全マップを作成する。あわせて他校での実施も検討する。	運用中 (R5～)
暮らし	書かない窓口システムの導入	待ち時間の短縮や手続の簡素化、職員の事務の効率化などの課題を解決し、窓口業務の改善を図るため、窓口DXサービスを導入する。	運用中 (R7.3～)
	オンライン申請サービスの推進	望む人すべてがオンライン手続できる環境を目指し、オンライン申請サービスを拡充する。	運用中 (R7.2～)
	粗大ごみ収集のオンライン申込	住民の利便性向上のため、粗大ごみ収集の申込みや収集料金の支払いをオンライン上で受け付ける。	運用中 (R6.4～)

令和6年度デジタル関連の市の取組（3／4）

分野	取組	概要	状況
暮らし (続き)	家庭ごみ搬入のオンライン予約	交通渋滞や長時間に及ぶ待ち時間の解消を図るため、家庭ごみの自己搬入のオンライン事前予約制度を導入する。	運用中 (R6.10～)
	スポーツ開放施設予約システムの導入	利用者の利便性の向上、管理者の事務効率化を目指し、市内小中学校の運動場・体育館を使用する際の手続きをオンラインで完結できるシステムの対象サービスを拡張し、導入校を拡大する。	運用中 (R5.12～)
	ごみ拾いSNSとごみ分布状況の可視化	SNSの活用により地域清掃活動の成果が見える化し、環境美化のさらなる推進を目指すとともに、車両に設置したスマホカメラの画像データをAI分析し、ごみの分布状況を可視化し効率的な環境美化の取組につなげる。	運用中 (継続実証)
産業	センサー等を活用したスマート農業	わさび生産初心者でも安定的・効率的に生産できるよう、最適な生産環境や体制の整備等に取り組むため、新規就農者とベテラン農家のビニールハウスに機器を設置し、生産環境のデータ取得を継続実施する。	運用中 (R5.10～)
	森林資源の見える化に向けた取組	森林資源情報の高精度化・高度利用化を図るため、周南市内の森林域の航空レーザ計測・解析データを森林GISに取り入れ、既存業務に活用するとともに、他の有効的な活用方法について検討する。	運用中 (R6.4～)

令和6年度デジタル関連の市の取組（4／4）

分野	取組	概要	状況
行政	クラウド型電子契約サービスの導入	市及び事業者のペーパーレス推進による業務効率化及び経費負担の軽減などを図るため、従来の紙と押印を用いた形式を、電子データおよび電子署名を用いた電子契約サービスに対応できるよう整備する。	一部運用中 (R6.12～)
	ノーコード業務改善ツールの導入	バックヤード業務の改善を推進するため、特別な知識やスキルがなくても感覚的に業務アプリを構築できる環境を整備する。	運用中 (R6.12～)
社会基盤	統合型・市民公開型GIS等の導入	行政サービスの向上、業務の最適化・高度化、コスト削減を実現するため、複数部署が利用するデータを各部局が共有できる形で整備・集約した市内横断的な地理情報システムを整備する。また、非公開データを除き、公表可能な情報を市民に公開する地理情報システムをあわせて整備する。	運用中 (R7.3～)
その他総合	スマートシティ推進のための仕組み実証、スマートシティ推進シンポジウム 等	※次ページ以降を参照	

進捗状況

◆ スマートシティ推進シンポジウム(12/22)

会場参加者: 55名(定員80名)

オンライン視聴申込者: 42名

- パネルディスカッションでは「**継続的に課題解決に取り組んでいくための工夫・アイデア**」や「**周南市にどのような仕組みがあるとよいか**」「**周南のスマートシティに対する提案**」について議論した。
- 今後期間限定でアーカイブ配信を予定。



◆ デジタル・デバйд対策

(山口県デジタル技術振興財団の補助制度を活用)

高齢者等がデジタルの利便性を理解するためのオンライン手続等のチラシ、ポスターを作成し、周知を行う。



前回のふりかえり

取組①

統合型情報受発信ツールの実証

将来的な市の情報受発信のあり方ととりまとめた機能要件を軸に製品・サービスを選定し、実証的に運用する。

→(事業範囲変更)行政情報の発信に絞った形で、**市の公式LINEを拡充**。

取組②

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

地域の情報発信・共有ツールの実装に向けて、検証が必要となる項目を整理し、検証する。

→**検証項目を定めて、実証を継続**。

取組③

モデル地区でのスマートシティ推進支援

モデル地区で収集できた地域課題・ニーズの概要を公表し、事業提案を公募する。

→提案公募制度を実施、枠組みを検証。

取組④

継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証

多様な主体が取り組む、課題解決等に向けた様々な活動の実行性を高める仕組みを実証する。

→**既存の活動と連携し、双方向の情報共有の場で課題解決策がブラッシュアップされるかの検証**、共有ツールに**求められる機能・運用の検証**。

前回のふりかえり

取組①

統合型情報受発信ツールの実証

将来的な市の情報受発信のあり方ととりまとめた機能要件を軸に製品・サービスを選定し、実証的に運用する。

→(事業範囲変更)行政情報の発信に絞った形で、市の公式LINEを拡充。

取組②

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

地域の情報発信・共有ツールの実装に向けて、検証が必要となる項目を整理し、検証する。

→**検証項目を定めて、実証を継続。**

取組③

モデル地区でのスマートシティ推進支援

モデル地区で収集できた地域課題・ニーズの概要を公表し、事業提案を公募する。

→提案公募制度を実施、枠組みを検証。

取組④

継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証

多様な主体が取り組む、課題解決等に向けた様々な活動の実行性を高める仕組みを実証する。

→**既存の活動と連携し、双方向の情報共有の場で課題解決策がブラッシュアップされるかの検証、共有ツールに求められる機能・運用の検証。**

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

地域公式LINE試行

令和7年3月22日時点の登録者数

周陽地区: 166名 ← 132名(令和6年10月末時点)

遠石地区: 224名 ← 131名(令和6年10月末時点)

地域の配信実績

※令和7年3月5日時点

周陽地区	月	回数	通数	月	回数	通数
	4月	—	—	10月	6	699
	5月	—	—	11月	2	260
	6月	—	—	12月	3	407
	7月	—	—	1月	7	1,024
	8月	3	226	2月	4	635
	9月	4	346	3月	1	158

周陽地区 配信回数計 30回
配信通数計 3,755通
月平均配信回数 3.75回

遠石地区	月	回数	通数	月	回数	通数
	4月	—	—	10月	2	240
	5月	—	—	11月	2	238
	6月	—	—	12月	4	689
	7月	5	510	1月	4	773
	8月	3	306	2月	4	816
	9月	3	297	3月	0	0

遠石地区 配信回数計 27回
配信通数計 3,869通
月平均配信回数 3回

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

地域ヒアリング

令和6年10月 中間ヒアリング
令和7年 3月 最終ヒアリング

検証結果 ※両地区のヒアリング内容等をもとに、市が評価。

◎**地域の人だけで運用していけそうか。**

管理者へのヒアリングにより市が評価。

検証項目	評価	備考
管理の手間は大きすぎないか (時間的コスト)	○	複数人での分担、月3回以内の配信頻度での評価。
管理に係る操作が難しすぎないか (操作スキル)	○	難しさは特に感じない。
管理ができそうな人が地域にいるか (人材発掘)	○	誰でも可能と思う。 ※人数が増えすぎるとガバナンス面に懸念あり。
情報発信ができそうな人が地域にいるか (人材発掘)	○	誰でも可能と思う。 ※人数が増えすぎるとガバナンス面に懸念あり。
管理におけるルールはどう設定するのか (運用ルール)	○	当初設定したルールで問題ない。 複数人管理にしたのはよかった。

[凡例]○:運用できそう △:運用までに課題あり ×:運用困難

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

◎地域の予算で運用していけそうか。

各地域の配信実績、管理者へのヒアリングにより市が評価。

検証項目	評価	備考
想定年間費用はどのくらいか (費用感)	△	配信実績から当面はライトプラン(税抜5,000円/月)で運用可能(税抜60,000円/年)と算出できたが、費用の捻出には課題が残る。
削減できる経費はないか (支出の減少)	○	チラシ等の印刷(用紙代、コピー代)、配付に係るコスト(時間、ガソリン代)の削減が見込める。
収入の増加は見込めるか (収入の増加)	△	各構成団体からの負担金徴収を想定し、調整中。 地元企業から協賛金を募る。(アイデアベース)

[凡例]○:運用できそう △:運用までに課題あり ×:運用困難

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

◎情報をどう取り扱うのが適正か。

管理者へのヒアリングにより市が評価。

検証項目	評価	備考
情報発信時のルールをどうするのか (情報統制)	○	自分たちでルールを決めた内容に沿って運用し、特に問題がなかった。 配信可能時間を設定したのはよかった。

[凡例]○:運用できそう △:運用までに課題あり ×:運用困難

◎登録者は増えそうか。

地域での周知・広報の内容と、登録者の推移を照らし合わせるにより市が評価。

検証項目	評価	備考
どのような周知が考えられるか	△	チラシの設置、チラシの配付、地区だよりへの記事掲載、イベント・会合時に案内を行ったが、あわせて声掛けをした場合が効果が高かった。 声掛け時に利用できるよう、カード型のリーフレット作成を行った地区もあった。 登録のインセンティブを感じてもらうための配信コンテンツ検討も必要。

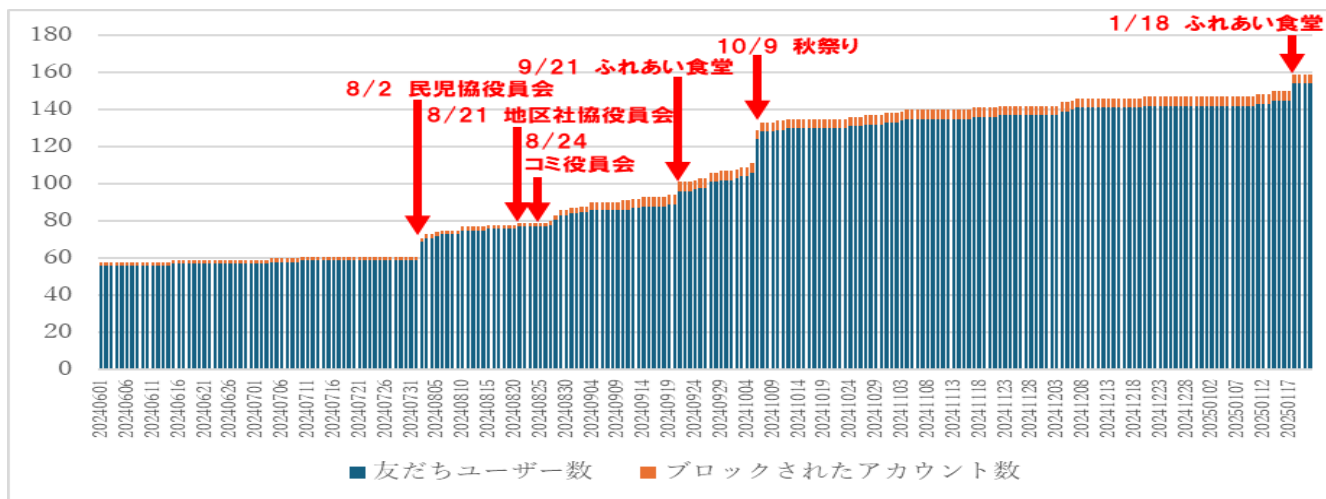
[凡例]○:運用できそう △:運用までに課題あり ×:運用困難

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

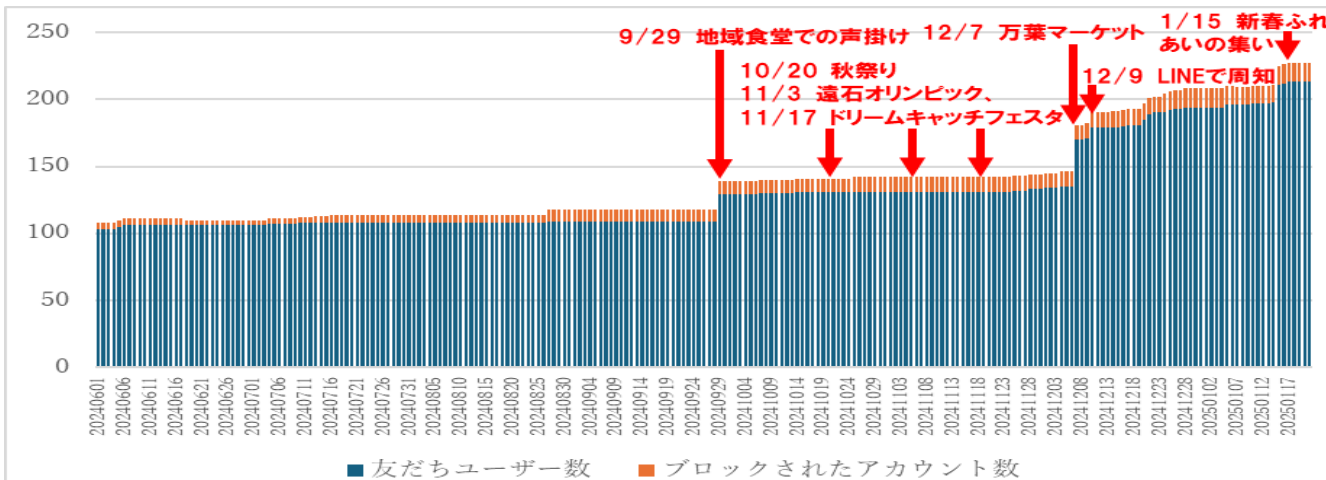
お友達登録者数の推移

※令和6年6月1日～令和7年1月21日

【周陽地区】



【遠石地区】



地域の情報発信・共有ツールの継続実証

◎行政としてどのような支援が可能か。

地域づくり推進課と公益財団法人周南市ふるさと振興財団において検討。

検証項目	評価	備考
人材面でどのような支援ができるか	△	具体的な支援が示せていない。 市とふるさと振興財団で連携して、可能な範囲でのサポートを行う。
費用面でどのような支援ができるか	△	具体的な支援が示せていない。 地域は、登録者が増え運用効果が出るまでは費用面の検討がしにくいため、市として現状を把握し、支援内容について検討する必要がある。

[凡例]○:支援可能 △:支援内容検討中 ×:支援不可能

今後の展開

地区での検証結果を、地域づくり推進課を通じて**市内の他地区にも共有する。**

前回のふりかえり

取組①

統合型情報受発信ツールの実証

将来的な市の情報受発信のあり方ととりまとめた機能要件を軸に製品・サービスを選定し、実証的に運用する。

→行政情報の発信に絞った形で、市の公式LINEを拡充。

取組②

地域の情報発信・共有ツールの継続実証

地域の情報発信・共有ツールの実装に向けて、検証が必要となる項目を整理し、検証する。

→**検証項目を定めて、実証を継続。**

取組③

モデル地区でのスマートシティ推進支援

モデル地区で収集できた地域課題・ニーズの概要を公表し、事業提案を公募する。

→提案公募制度を実施、枠組みを検証。

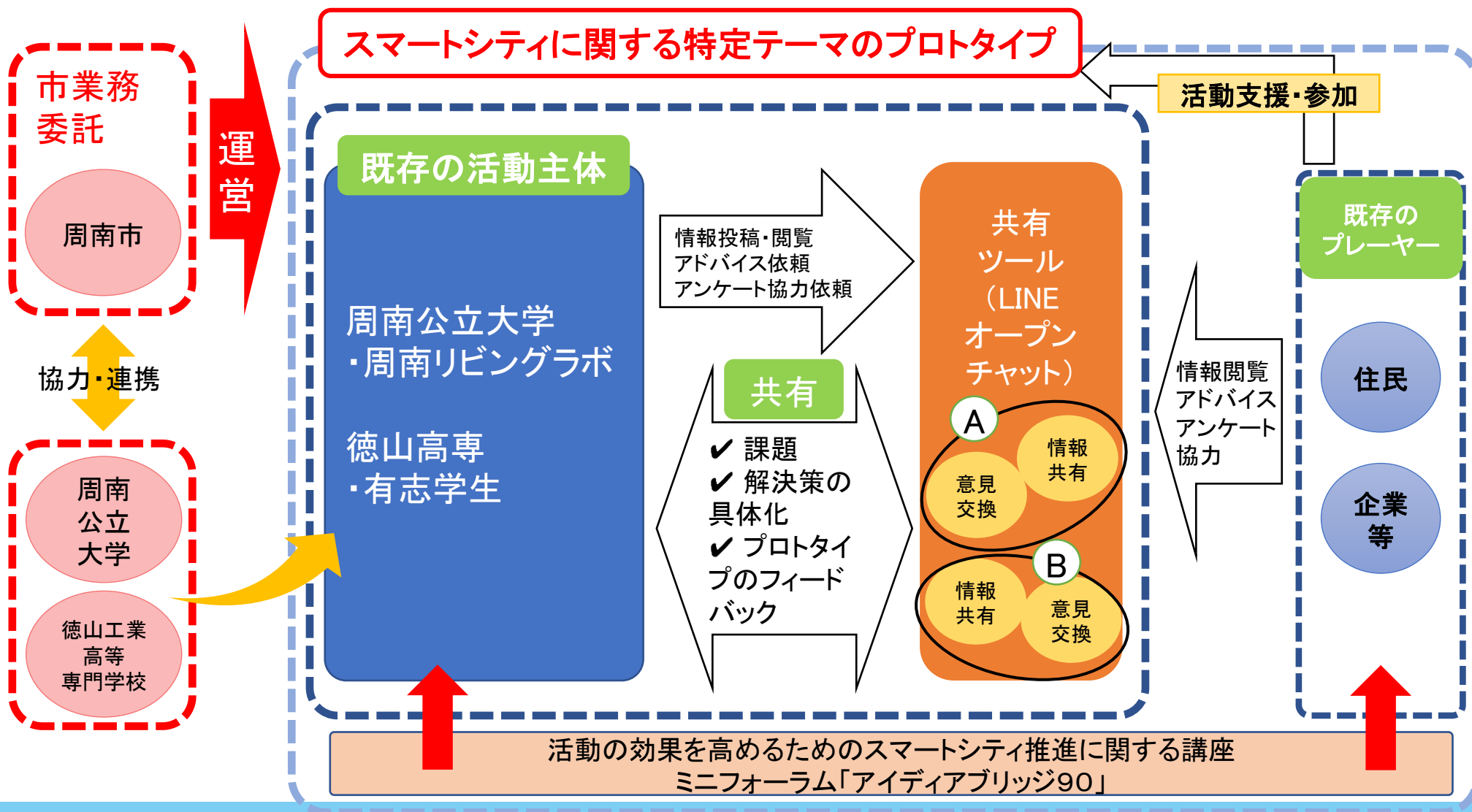
取組④

継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証

多様な主体が取り組む、課題解決等に向けた様々な活動の実行性を高める仕組みを実証する。

→**既存の活動と連携し、双方向の情報共有の場で課題解決策がブラッシュアップされるかの検証、共有ツールに求められる機能・運用の検証。**

継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証



※本実証における「プロトタイプ」は解決策のアイデアの提示までの内容を指す 17

令和6年度に連携した既存の活動

実証参画実績(共有ツール)

活動主体	5チーム	
企業等(企業・団体)	5者	
住民	1名	※不明1名を除く。

※評価のためのアンケートは実証に参画いただいた活動主体・企業等・住民に加え、協力いただいた先生方にも依頼

【周南リビングラボ(課外活動)】(学生、企業、団体)

- 大学生をターゲットとした湯野地域(温泉観光地域)活用ワーキングホリデー
- 地域コミュニティ
 - ・地域のプレイヤーとつながる座談会
 - ・地域と学生をボランティアでつなぐコンシェルジュコミュニティ創設
- フィリピン・セブ島の子どもの貧困問題と大学生をつなぐプロジェクト

【徳山工業高等専門学校 有志学生(課外活動)】(学生のみ)

- ベルマークの自動仕分け

フレームワークの評価

アンケート回答対象者

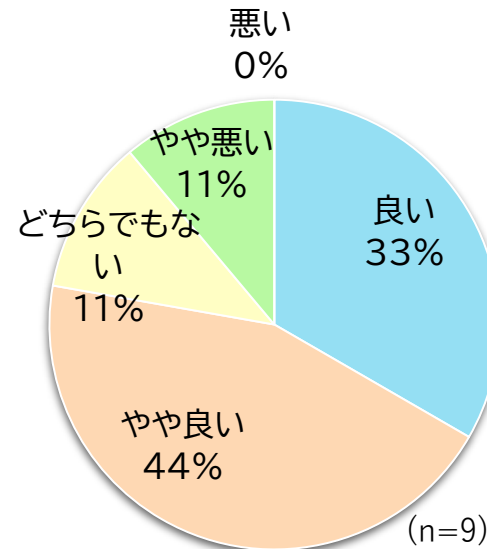
★ 活動主体 ★ 企業等 ★ 住民 ★ 先生

アンケート結果(速報まとめ)

Q.デジタルツール上で多様な主体が参加して地域課題解決に取り組むことへの評価

★ 活 ★ 企 ★ 住 ★ 先

- 回答者の**約8割**が「良い」「やや良い」を選択。
- 「普段聞けないフィードバックが得られること」や「多角的な視点を得るきっかけになる」などの声があった。
- 一方で、「具体的なニーズを聞ける場の必要性」や「デジタル上での参加頻度がまばらになる」ことへの懸念など、デジタルツールの利用の習慣化への課題も挙げられた。



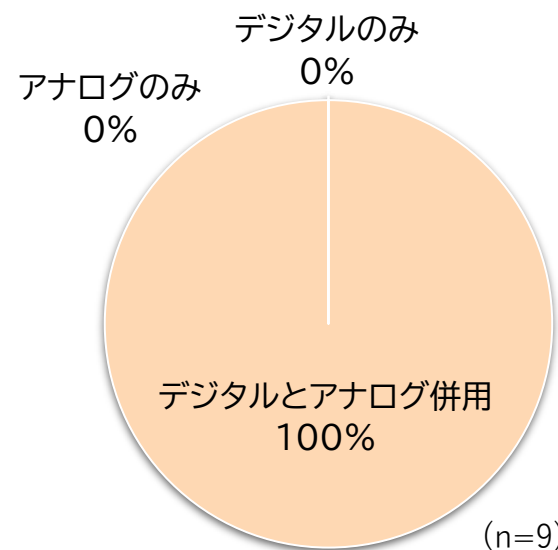
フレームワークの評価

アンケート結果(速報まとめ)

Q.オープンチャット等のデジタルツール上での意見交換とアナログの場での意見交換では、どちらが活動する上で取り組みやすいか



- 回答者全員が「デジタルとアナログ併用」と回答。
- 「議論をする上で、相手の考え方をより理解する環境の必要性」や「人や場の雰囲気、表情、文脈の読み取りにはリアルな場が必要である」、「一度は顔合わせをしたのちに企業との連携をするべき」との意見があった。



- デジタルツールを活用した多様な主体による地域課題解決への賛同
- アナログの場の必要性への言及

ミニフォーラム アイディアブリッジ90

参加者数

活動主体 10名

住民 1名

※当日参加できなかった方向けにアーカイブ配信を実施

プログラム

1. ワーク

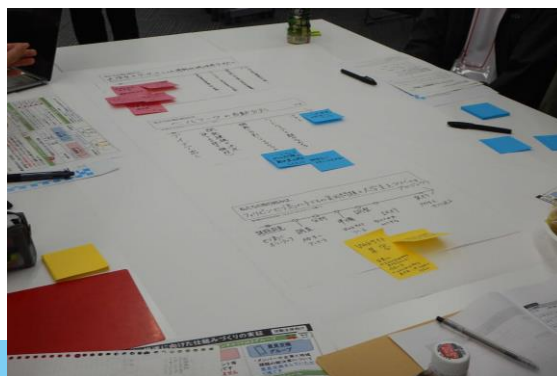
テーマ: 各々の取組テーマに対し、オープンチャットがどのように使えそうか

2. ディスカッション

パネリスト: 赤木先生(周南公立大学)、柳澤先生(徳山高専)、宮崎先生(徳山高専)など

議題1: アイディアを現実的にするために出来ること

議題2: イノベーションにつなげるために出来ること



ミニフォーラムに関する評価

アンケート結果(速報まとめ)

Q.直接顔を合わせるアナログな場での相互の取組の紹介
が実証に効果があったと感じたか

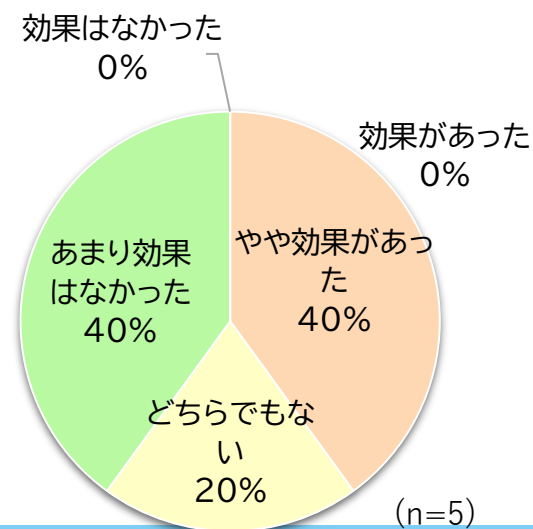
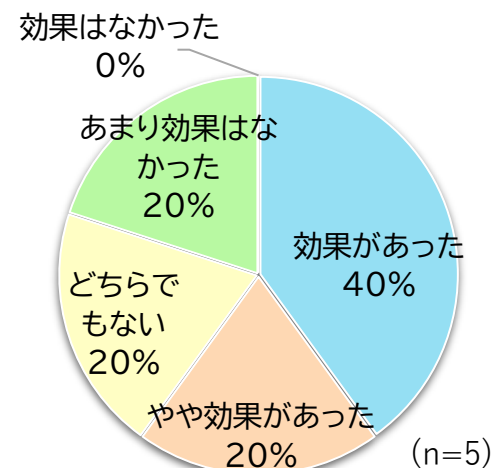
☆活 ☆企 ☆住 ☆先

- 回答者の**6割**が効果を実感。
- 「あまり効果はなかった」の理由としては「活動主体の都合により、企画自体が進んでいなかった」ことを理由とするもの。

Q.オープンチャットを活用するシーンを事前に考えたこと
に対する評価

☆活 ☆企 ☆住 ☆先

- 活用シーンを考えた効果については、意見が分かれた。
- 「実証前段階と実際の活動時ではうまくいかないことも多く、事前に考えた活動シーンをアップデートさせる必要が多々あり、実践知を参加者どうしで共有、活用することができなかった」という意見があった。



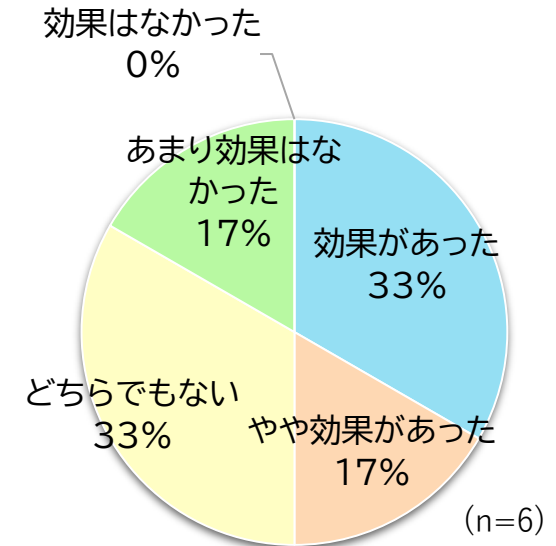
ミニフォーラムに関する評価

アンケート結果(速報まとめ)

Q.講師によるディスカッションがそれぞれの取組や実証参加にあたって効果があったか



- 回答者の**5割**が効果を実感。
- 「あまり効果はなかった」の理由としては「活動主体の都合により、企画自体が進んでいなかった」ことを理由とするもの(前述同様)。



- アナログの場の有効性を確認
- プログラム内容は改善の余地あり

共有ツール(LINEオープンチャット)

開設数

4テーマ(8グループ)

※活動主体ごとに2つのオープンチャットを開設(情報共有グループと意見交換グループ)

※地域コミュニティは合同のオープンチャット

参加人数

	開設日	グループ	活動主体	企業等	住民	不明
【湯野】 ワーホリ	11/19	情報共有	7	3	0	0
		意見交換	7	3	0	0
地域 コミュニティ	11/28	情報共有	2	1	0	0
		意見交換	2	1	1	1
セブ島 貧困問題	11/19	情報共有	1	2	0	0
		意見交換	1	2	0	0
徳山高専 有志	12/17	情報共有	3	1	0	0
		意見交換	4	1	0	0

※参加者のうち、担当課、受託者は除く。

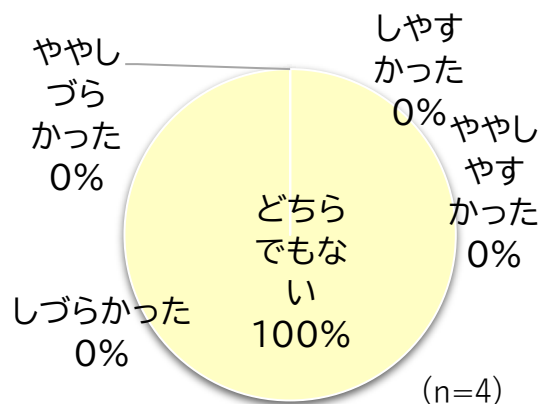
共有ツールに対する評価

アンケート結果(速報まとめ)

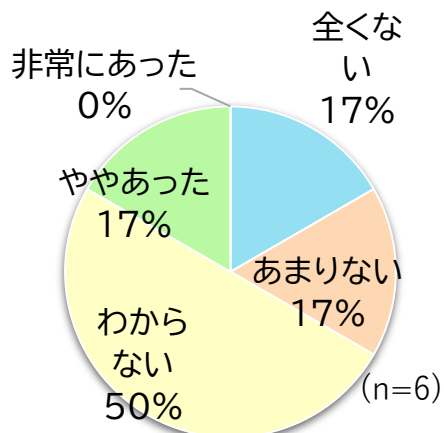
1. 機能面



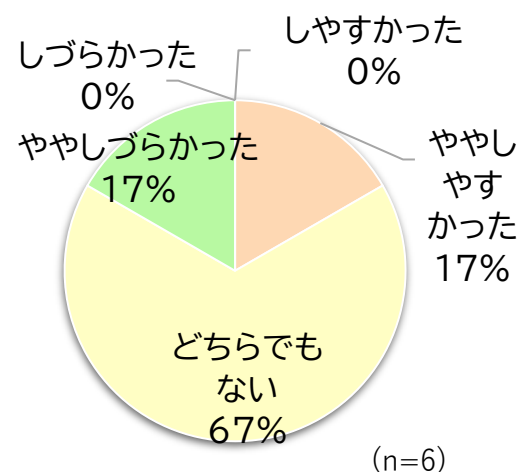
活動状況の情報発信
はしやすかったか



情報の見づらさ



意見交換のしやすさ

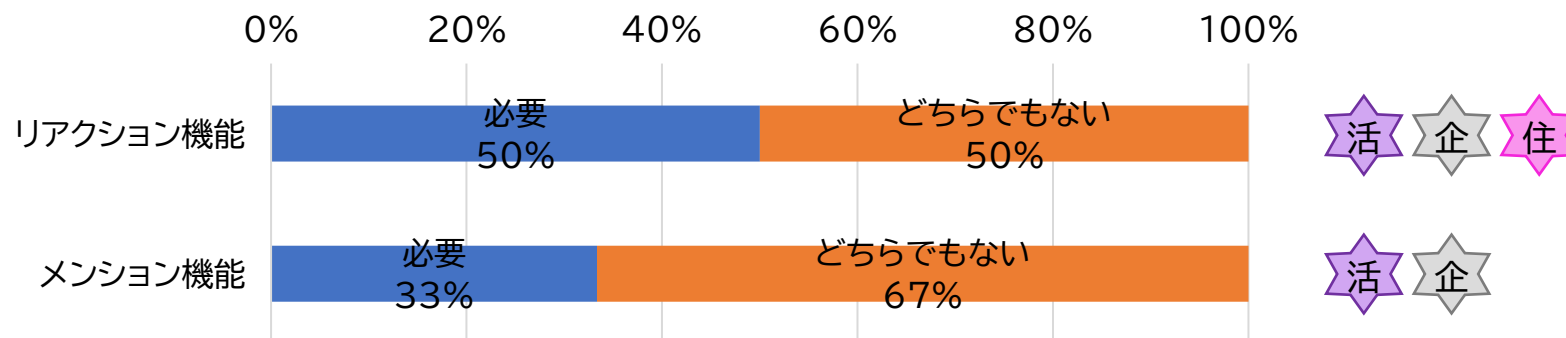


共有ツールに対する評価

アンケート結果(速報まとめ)

1. 機能面(続き)

リアクション機能やメンション機能の必要性



参加者の匿名性(ニックネーム設定)についてどのように感じたか(自由記述)

- 「問題ない」、「良い」という意見が大半であった。
- 匿名性は「企業の方は必要性を感じない」という意見もあった。

共有ツールに対する評価

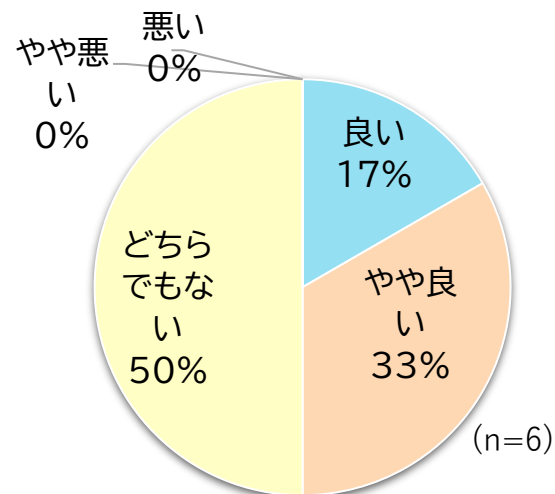
アンケート結果(速報まとめ)

2. 運用面



情報共有グループと意見交換グループを分けた運用の評価

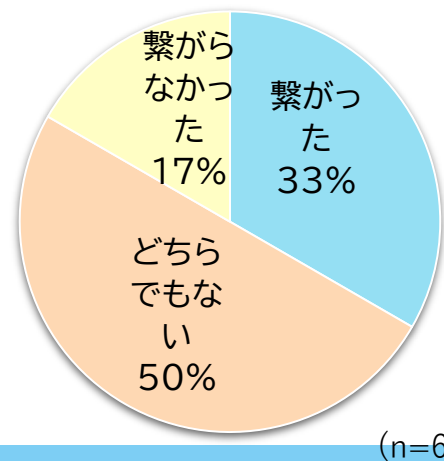
- 投稿される情報の煩雑化を防ぐ目的で導入したグループの使い分けについては、否定的な意見は無し。



立場の明示はコミュニケーションの円滑化につながったか

※ニックネームの前に【活動主体】【企業等】など立場を付記する運用を行ったことに対する評価

- デジタルツール上での立場の明示は、コミュニケーションをとる上で一定の役割は担っていたと思われる。



共有ツールに対する評価

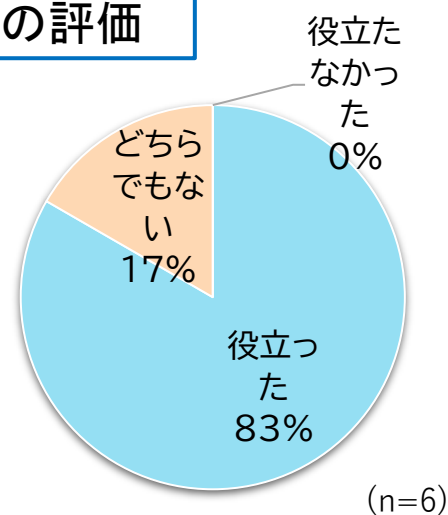
アンケート結果(速報まとめ)

2. 運用面(続き)



規約で規定した禁止事項等ルールが健全な議論に役立ったかの評価

- デジタル上でのコミュニケーションのトラブル回避や不安なく意見交換を行うには、一定の禁止事項などのルール化が重要。



WEBアンケートの分析・検証により、**効果的な共有ツールの機能要件、運用方法を整理**

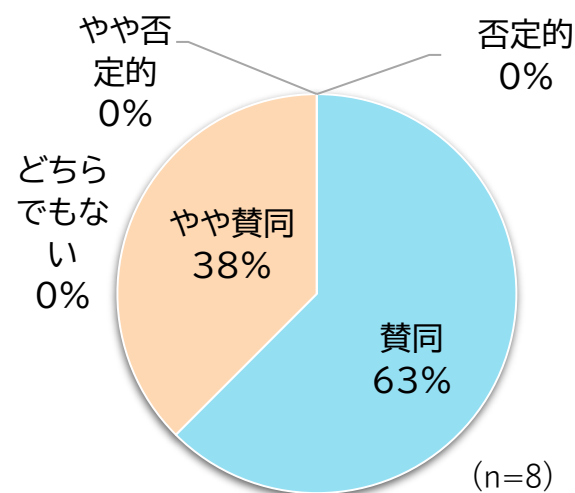
取組に対する評価

アンケート結果(速報まとめ)

取組に対する意見



- 仕組みを実装していくことに対しては、全員が賛同する意見であった。
- 仕組みを実装・運営していくために必要な要素・条件として、以下のとおり回答を得た。(自由記述意見)
 - ・運営していく上でのまとめ役。
 - ・活動主体間の状況を俯瞰、共有できる機会や人。
 - ・活動主体間が集まるコミュニティ機能。
 - ・分野ごとのゆるい繋がりや場の対話をする少人数のコミュニケーションの場とそれをアレンジする人。



- スマートシティが自走する仕組みの構築に取り組む意義を確認
- 活動をコーディネートする存在や適切な場の設定が重要

その他の評価

実証において確認できた事象

- 作成した4テーマのオープンチャットのうち、3テーマについては限定的なコミュニケーションにとどまったり、自発的な発言に至らなかった。
- オープンチャットへの参加者(企業等、住民)が少なかった。

活動主体の声

- 「自分たちの活動の進捗により、活用できなかった」の回答が多くを占めた。(回答者3名中3名、100%)
- その他「活動に対して、オープンチャットの活用イメージがわからなかった」「参加者の素性がわからず、発言するのに抵抗があった」という意見があった。

その他考えられる要因

- 学生中心の既存の活動との連携であるため、学生への配慮も含めた理想的な空気感を作ることを前提に運用を行った。(学生と関わりのある企業への参加要請、双方向のやりとりの制限)

総括

見えた成果

(活動主体からの意見抜粋)

- 情報発信を通じて、自らの活動に対する関心を高めることができる。
- 参加者からの問いかけに意見を返すことが頭の整理に繋がった。
- 普段聞けないフィードバックやリアクションを聞けて、その都度軌道修正や新しい視点をもらえた。

➡ 多様な主体との意見交換は課題解決策のブラッシュアップに寄与する。

検証結果をもとに、改善点を踏まえた仕組みの枠組みを検討

資料2

次年度の取組の方向性について

令和7年度デジタル関連の市の取組

※令和7年度新規・拡充する取組のうち、市民に影響がある取組を抜粋して掲載

※これまでのデジタル関連の取組の累積数(終了した取組、事務効率化に留まる取組も含む) 85件

分野	取組	概要
暮らし	1 市公式LINEの拡充	市民が関心のある情報を自動で受け取れるようにするため、市公式LINEを拡充し、市政情報の発信効率を高める。
安心安全	2 防災DXの推進	災害情報システムを整備することで、迅速かつ的確な災害情報等を発信し市民の安全・安心を確保する。
行政	3 キャッシュレス決済窓口の拡充	市民の利便性の向上および現金取扱に係る窓口業務の効率化を図るためキャッシュレス窓口の拡充と、それに伴う事務フローの見直しを行う。
	4 預貯金電子照会	行政・金融機関双方の負担軽減及び事務処理の効率化のために、預貯金照会の電子化サービスを利用する。
観光交流・文化	5 回天記念館の公衆Wi-Fi整備	展示内容をより深く理解してもらうコンテンツへのアクセスを容易にするため、大津島にある回天記念館のWi-Fiを整備する。
医療・福祉	6 音声文字変換タブレット端末機器の窓口設置	聴覚障害や加齢による難聴等のため、窓口で円滑に意思疎通を行うことが困難な来庁者を支援するため、行政窓口にて、音声文字化アプリを搭載したタブレット端末を設置する。(実証事業)
学び・子育て	7 子育て支援施策情報発信のサブサイト作成	子育てに関する情報をより分かりやすく提供するため、市ホームページ内に子育て支援情報を集約したサブサイトを作成する。
	8 教育支援センターのICT強化	センターにおいて学校との円滑な教育データの連携や通所する児童生徒が学校に準じた学習活動が行えるよう必要なICT環境を整備する。

(仮称)周南スマートシティデザインラボの実装

R3

● 住民起点の問題抽出・課題整理（3つの重点プログラム）

- ① ウォークابل&ウェルネスタウン化
- ② ホームタウン化
- ③ セイフティタウン化

R4

- 課題の検証（アイデア実証、WS）
- 社会受容性の醸成（市民との対話）

R5

モデル地区での実証（課題・ニーズへのアプローチ）

- 実証（デジタル安全マップ、河川監視[センサー、カメラ]、地区LINE、ごみ分布マップ）
- 課題整理（情報受発信）
- デバイド対策（スマホ体験会）

R6

- 実証検討（統合型情報受発信ツール）

R7

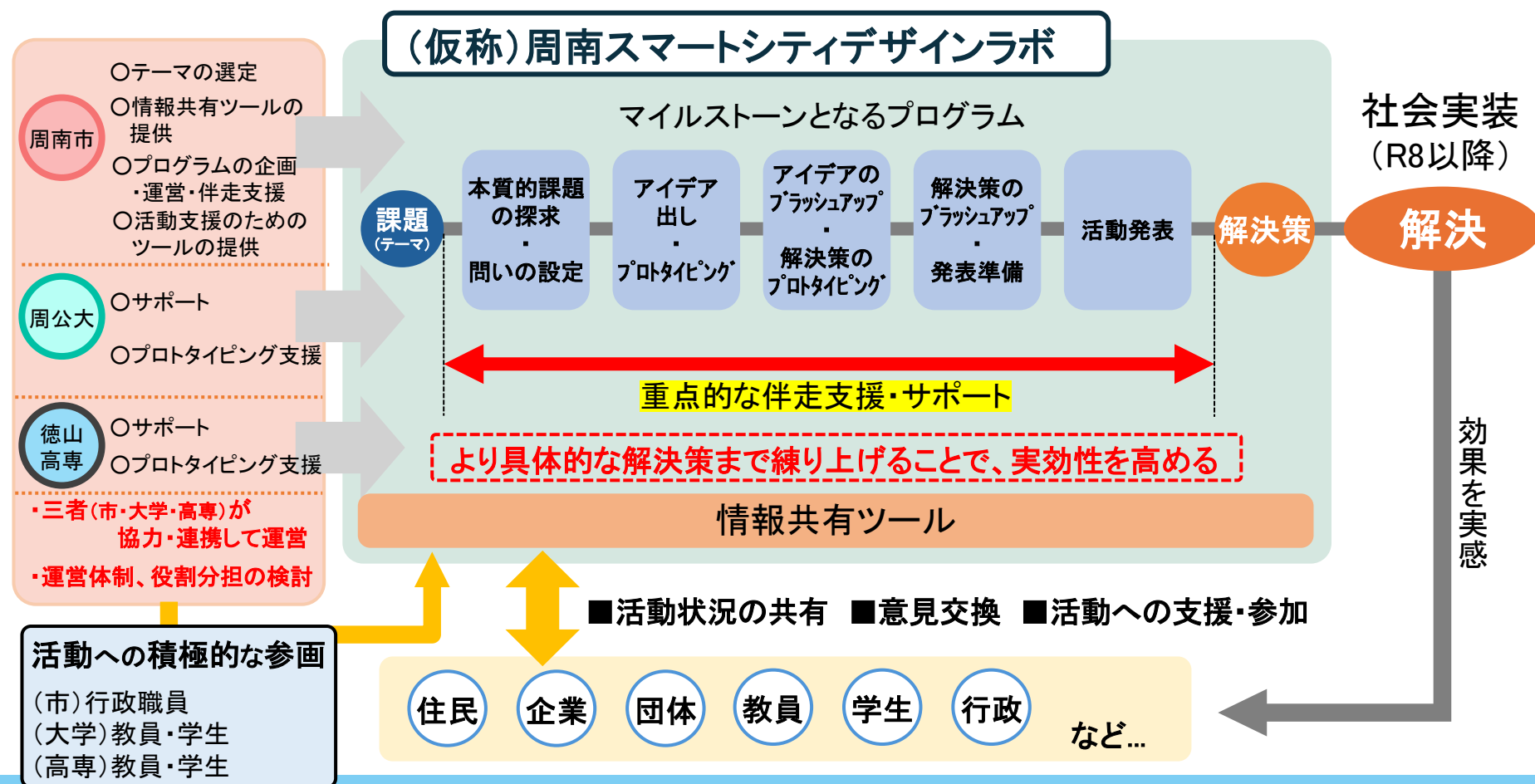
- 実装（市公式LINE拡充・行政情報発信の効率化）

継続的なスマートシティ推進のための仕組みづくり

- 検討（継続的な課題解決の仕組み）
- 実証（継続的な課題解決の仕組み）
- 実装【（仮称）周南スマートシティデザインラボ】

(仮称)周南スマートシティデザインラボの実装

令和7年度は**仕組みがまちにもたらす変化を目に見える形にする**ため、
取り組むテーマを絞り、スモールに実装する。



※検討中の事項を含み変更の可能性があります。